

れんめんと

古今東西かけはしコラム

創刊号
2023. 05

[文責]
今井輝善
(鍼灸 YOU-GEN)

駅がつぼ、線路が経絡

今井輝善と申します。鍼灸あん摩マッサージ指圧師です。

今回、「つぼと経絡(けいらく)」というテーマで、コラムを書かせて頂くことになりました。

「つぼ」とは通称で、正式名は、「経穴(けいけつ)」といいます。「つぼ」といったほうが馴染みやすいと思われそうです。以下、「つぼ」と呼んでいきます。

さて、「つぼと経絡(けいらく)」を説明する時に、よく例えられるのは、電車の駅と線路です。

駅が「つぼ」で、線路が「経絡」。
人の体には、主要な線路(経絡)が複数あって、360以上の駅(経穴)があります。それぞれの線路は繋がりが合っていて、全身くまなく張り巡らされています。何となくイメージしますか？

「つぼと経絡(けいらく)」が体系化されたのが、今から2000年以上前の古代中国です。しかし、更に遡った時代に「つぼ」という認識があった可能性があります。しかも、ヨーロッパ大陸に。

アイスマンとつぼ

皆様、「アイスマン」を覚えていらつしやいますか？

今から約30年前の1991年9月、オーストリアとイタリアの国境の山岳地帯。標高約3210メートルの氷原で、うつぶせの状態でも横たわっていたミイラが発見されました。凍った状態のミイラだったので「アイスマン」と呼ばれています。驚くことに5000年以上前の凍結ミイラです。

アイスマンには、刺青が複数あり、東洋医学の「つぼ」の位置と一致している刺青もあつたと報告されています。

また、森ノ宮医療大学鍼灸情報センターの記事によると、「様々な画像診断の手法を用いて行われたアイスマンの健康状態の検証によって、彼の頸部・腰部・仙腸関節・股関節などに変形性関節症が存在したことがわかっており」[2]、入れ墨の位置は、それらの症状の局所または関連痛を感じる部位(たとえば腰椎が原因で発生する坐骨神経痛)に一致しているのではないかと推察する研究者たちもいます[3]。

私たちは、肩が凝ったり、腰が痛かったり、足がだるくなったりしたら、気になる場所に自然と手がいき、揉んだり、さすったり、叩いたり、押したりしています。まったく東洋医学の知識がなくても、まさに、その場所が「つぼと経絡(けいらく)」の位置と一致することもあります。

そう考えると、「東洋医学は難しい」と構え過ぎないで、もつと気楽に、もつと身近に感じていけたら、新たな世界が拓けて行くのではないかと思います。

《参考文献／参考及び引用ウェブサイト》

[1] 「5000年前の男」コンラッド・シュピンドラー著(訳：畔上司)／文藝春秋 1998年

[2] 森ノ宮医療大学鍼灸情報センターHP
アイスマンの刺青と鍼治療

<https://numsaic.jp/info/index.php?c=top>
ics2_view&pk=1410925077

[3] ナショナルジオグラフィック日本版HP

凍結ミイラ「アイスマン」発見から30年、明らかになった10の事実

https://natgeo.nikkeibp.co.jp/acl/news/21/091700459/?ST=m_news